

会議名	令和2年度	開催日	令和2年9月28日(月)
	第1回台東区立図書館に関する意見交換会	時間	午後7時～8時30分
		場所	生涯学習センター5階501教育研修室
出席者	大串夏身委員長(昭和女子大学名誉教授) 野末俊比古副委員長(青山学院大学教授) 尾花達也委員(公募区民) 森本勝大委員(公募区民) 川田善男委員(台東区立富士小学校校長) 鈴木真紀子委員(台東区立富士幼稚園園長) 永田晴久委員(台東区社会教育団体協議会理事長、台東区写真連盟理事長) 酒井まり委員(台東区教育委員会事務局次長)		
配布資料	事前配布資料 台東区の図書館 令和元年度事業報告 当日配付資料 資料1 台東区立図書館宅配サービス 案内チラシ 資料2 本を使った調べ学習の手引き 資料3 台東区立図書館での新型コロナウイルス感染防止対策について 資料4 今後の図書館サービスについて		
内容	1. 開会 配布資料の確認 2. 挨拶 台東区教育委員会次長事務局酒井委員 3. 委員紹介 4. 委員長・副委員長 選出・挨拶 ○大串委員長、野末副委員長を選出 5. 議事 (1) 令和元年度の図書館事業実績及び令和2年度新規事業紹介について ○事業報告・資料1及び2について、事務局から説明。 [委員長] ただ今の説明について、質問・意見を聞かせてほしい。 [委員] 令和元年度事業報告の24頁 5. 統計の推移 (5) 図書資料貸出について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各館軒並み減少という状況の中、団体貸出や浅草橋分室だけ貸出冊数が微増という説明があった。何か理由はあるのか。 [事務局] もともと本離れのため貸出冊数は減少傾向であったが、令和元年度は全体的に減少した。浅草橋分室だけが微増した原因は、浅草橋は企業が多く、また、区民が増えてきている地域であることが考えられるが、正確な理由はわからない。図書館としては、運営方法やイベントの工夫で、図書館離れ・本離れの防止に引き続き取り組んでいく。		

[委員]

浅草橋分室では何か特別な施策や企画等は行ったのか。

[事務局]

各館で、地域ごとにテーマコーナーや特集を設置しているが、浅草橋だけ特段これを行ったから増えたというようなことはない。図書館全体としては、池波正太郎記念文庫のビブリオバトルのような新規事業を行う等、運営の方でも努力をしているが、なかなか入館者数につながっていない状況である。

[委員長]

浅草橋は、入った時に両側の見通しがきき、地域の資料等がわかりやすく置いてある。レファレンスブックの置き方も良く、何かを調べるとい点でも、地域のことを知るとい点でも、利用者に親切である。

[委員]

リピート率が高いのが浅草橋なのか。

[委員長]

やはり利用しやすいという点ではいい図書館だと思う。浅草橋分室だけではなく、くらまえオレンジ図書館も、利用者から利用しやすいという声を聞いたことがある。資料の置き方だけでなく、カウンターの場所もよい。やはり、利用しやすい所には人が集まるのではないと思う。

[委員]

調べ学習の手引きは、いつ作成し、どのように配付したのか。

[事務局]

8月上旬に作成し、館内に配置したり、HPに掲載した。

[委員]

宅配サービスについて、利用登録者が2名なのは少なすぎる。広報にもっと力を入れてはどうか。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として生かす予定があれば、もっと大々的に実施してはどうか。

[事務局]

広報については、障害・介護関係の事業所等にチラシを置かせてもらったり、区民全般に向けた広報誌である「広報たいとう」に記事を掲載する等した。7月から実施しているが、2名というのは確かに少ない。ただ、対象者が限定されているため、多ければ良いというものではない。必要な人に必要な量のサービスを届けるためにも、広報は引き続き行っていく。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館の際に、対応の一つとして宅配サービスを全般的に実施するかについて検討したが、費用のこともあり実施には至らなかった。現時点でも実施の予定はないが、今後臨時休館の事態になった場合にも、選択肢のひとつとして検討していく。

[委員]

宅配サービスについて、システム利用料や、職員への特別な負担は発生しているのか。

[事務局]

システム利用料は発生していないが、配送の費用は図書館が負担している。職員への負担は、通常業務の延長程度である。

[委員]

宅配サービスについて、目標はあるのか。あるとすれば、それはどのように決めたのか。

〔事務局〕

宅配サービスの目標として、具体的な数値は出していない。令和2年度に実施するという目標を設定していた。利用登録者数、満足度、リピート率等の中から、今後の指標や目標をどう決めていくのかについては、これから検討しなければならない所である。

〔委員長〕

図書館がこの様な宅配サービスをやっているとは誰も知らない。図書館に来れない方々に、本を読むという基本的なことを保障するのは重要なことだ。宅配サービスをたくさんの人に理解し、知ってもらえれば、他区にもどんどん広がっていくと思う。今は実績を作る段階だが、将来的には費用面で郵便局等と協力していけばよいのではないか。

〔副委員長〕

宅配サービスの対象者はあまり外出ができない人達なので、広報が届きにくい。区の担当課と協力し、対象者が何人いるのかを把握した方が良い。ボランティア団体や病院等の組織と協力して、なるべく当事者や介護者に届くよう、広報活動を工夫すべきだ。

調べ学習の手引きについては、小学校の先生の研究会と協力してブラッシュアップしたり、フィードバックをもらう等すれば、より良いものができるのではないか。小学生は学年によって、学習の内容も全然違ってくるので、低学年用、中学年用、高学年用等に分けても良いと思う。

また、図書館全体の傾向として、利用者が減っている。統計上の利用者数が減っているとしても、満足度や滞在時間別等の指標を持ち、その向上に向けて努力すべきだ。

〔委員長〕

他区の図書館ではもっと利用者が減っているところもある。これは本が売れない理由と同じで、団塊の世代の利用が減っているからである。図書館なりに努力をしなければいけないが、あまりジタバタしてもしょうがない。むしろ冷静に事態を把握し、これからの利用者をどう増やしていくかについて考えるべきだ。例えば、子どもへのサービスをきちんと提供していけば、大人になってからも図書館を利用するという調査結果もある。まずは出来るところからサービスを積み上げていくことだ。

〔委員〕

小さいころから図書館に通うと、小学生になっても自発的に利用する。幼稚園でも絵本の貸出を行っているが、3・4歳児は園の本を何回も借りたとしても、5歳児からは図書館に保護者と一緒に借りに行くよう、幼稚園でも呼び掛けていきたい。以前渋谷区の臨川というところで勤務していたが、小学校の図書館で読み聞かせがあると、地域の親子がふらりと参加することがあった。小学校の中の図書館でも、きちんと周知すれば、地域の親子も利用するのだと感じた。

また、去年の7月頃に図書館から本の利用調査をもらったので、園の保護者に聞いてみると、小さい子どもを連れてワイワイ図書館に行くのはちょっと気が引けるとか、富士幼稚園の近辺に小さい子どもを連れて歩いていける図書館がないというのがあるようだった。区内の図書館を把握し、保護者に伝えていくのも幼稚園として重要な役割だと感じた。

（2）台東区立図書館の新型コロナウイルス感染防止対策について

○資料3について、事務局から説明。

〔委員長〕

ただ今の説明について、質問・意見を聞かせてほしい。

〔委員〕

1. 利用者への依頼事項（4）入館票の記入に関しては、記入の呼びかけや用紙の回収は、職員の負担になってはいないのか。

[事務局]

記入は強制ではなく、あくまで協力という位置づけからお声がけをしている。

また、毎日何百枚を回収・管理しなければならないため、当然手間もかかっているが、労力を考えても必要であると判断したため実施している。

[委員]

入館票に個人情報に記載されているため、どうしても管理に手間が生じている。入館票については、短期・中期・長期の観点から検討していったらどうか。現在の対応は短期的には良いが、そろそろ中期的な観点から考える段階に入っている。例えば、都の施設でも導入されているように、QRコードを活用したサービスを提供すれば、万が一新型コロナ等の感染症が図書館で確認された際にも情報が追いやすくなるのでは。長期的には、Suicaのような多数の人が持っている非接触のICカードをタッチしてもらって連携等も有効ではないだろうか。利用者カードやシステムの変更等には長い時間がかかるが、入館票を書かせ続けるのもどうか。

[事務局]

何度も図書館に来館している利用者に、その都度書かせているのは申し訳ないが、入館票には来館時の体調チェックの役割もある。その部分は、中期・長期かかわらず、コロナが収束するまではやっていたらならない。ただ、「図書館の自由に関する宣言」との兼ね合いがあるため、入館票の取り扱いについてはそこも含めて検討していきたい。

[副委員長]

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は、利用者の安心のためにも、図書館協会のガイドラインという公的なものに則っていることを周知すると良い。

入館票については、個人情報の関係で難しい部分があるのも重々承知しているが、方針をきちんと定めていった方がよい。新型コロナウイルス感染症拡大防止という安全性を優先していること、個人情報を厳格に扱っていることを入館者へ訴えていったらどうか。

また、並ばれて密が生じないように、なるべく記入の手間を減らしていく工夫をした方がよい。例えばHPに書式を載せてあらかじめ記入して持ってきてもらう、利用カードを持っている人には番号だけを記入してもらう、帰る際に次の記入分を手渡す等してはどうか。安全性と利便性はトレードオフな部分があるが、図書館は利用されてこそ意味があるため、なるべく利用のハードルを低くした方がよい。

[事務局]

当然図書館協会のガイドラインに則って、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行っているが、HPでの周知は行っていないので、参考にさせていただきたい。

[委員]

幼稚園では、誰が触ったかわからない本を園児が借りることに抵抗があり、しばらくは貸出をやめていた。現在は、本を借りたり、家で読む際の消毒を呼び掛け、貸出を再開している。図書館でも何か呼びかけはしているのか。

[事務局]

図書館では、本を読む前と呼んだ後の手指の消毒の徹底を呼び掛けている。

(3) 今後の図書館サービスについて

○資料4について、事務局から説明。

[委員長]

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、電子図書の貸出を増やしていくべきだという話はあるが、やはり貸出コンテンツが少ないこともあり、なかなか進んでいない。質問・意見はあるか。

[委員]

利用者としては、次に何を借りるかを検討するため、HPで自分の履歴をみてこのシリーズはここまで借りた等がわかるとありがたい。また、台東区写真連盟では、昭和30～40年ごろから撮っている写真があり、生涯学習課や下町風俗資料館で活用されている。このような古い写真をデータ化して、皆さんに公開していければ嬉しい。

[事務局]

利用者の読書履歴の確認については、今言及があった図書館のHPで確認するものと、書き込み式の読書通帳がある。書き込み式については、子どもの読書推進という目的で、現在は対象を子どもに絞って行っている。

また、貴重資料のデータ化については、部署ごとにそれぞれの目的に沿ってデータ化や公開を行っている所であるが、図書館としては館で所有する郷土資料・貴重資料の中から、著作権が切れているものをデータ化し、皆さんに公開するという方針で実施している。ただ、公開していても、HPの中の写真がある場所になかなかとり着かない。今後のシステム改修の際に、目につきやすい検索の仕組みを作る方向で検討していきたい。

[委員]

図書館の利用者登録番号を入力するだけで、読書履歴を確認できたり、閲覧席を予約できるシステムを作ったら便利だと思う。なお、資料4の検討事項について大まかなスケジュールはあるのか。

[事務局]

今後の図書館サービスについては、大きく3つに分けられる。1つ目の情報システムの更なる活用については、来年度リース期間が終了するので、そのタイミングでリプレースするかどうかを検討する。金額等の制限はあるが、システムをリプレースするタイミングで、できる限り利便性を向上させていきたい。2つ目の新たな形での図書館イベントの実施については、現在集客するイベントができないため、短期的に取り組む課題であると認識している。著作権等の制限があり、思うようにできない部分もあるが、他の自治体の動向も見ながら、YouTube、Zoom等を利用したオンラインイベントにも取り組んでいきたい。3点目の新たな図書館運営については、閲覧席のオンライン予約や利用者カードの運用変更などシステムに関連する部分もあるが、規模の大きな話になってくるので、長期的な課題として検討していきたい。

[委員]

講演会も演者とあらかじめ配信をする前提で交渉しておけば、配信も可能ではないか。図書館に来れない人が、企画展や講演会等をYouTubeやZoomで見ることができれば、興味を持ってもらえるきっかけになる。

[事務局]

講演会はまだ行っていないが、企画展については、専門員が解説する動画を広報課と協力して作成し、YouTubeで配信した。

[副委員長]

これまでの図書館イベントは、その日その場所に行かなければ楽しむことができなかつた。そのため、対象が小さい子どもや高齢者に偏りがちであったが、オンラインなら、ビジネスパーソンが夕方から参加したり、録画を見ることができる。なお、この様に新しいことをする際には、図書館で全部行うのは大変であるので、企業、学生等区民の力も借りたらよい。新規に利用者を増やすためには、運営に関わってもらうのが一番であるので、そういった観点からも力を入れていくと良いのではないかと。

システム関連については、これからたくさんの方が可能になるかと思われるが、今のうちにできるだけ沢山シミュレーションを行っておくべきだ。例えば資料にしても、現代の若者はピンポイントで探すのではなく、Amazon、YouTubeのおすすめのような、自動的に出てくるものから選び、関心・興味を広げることに慣れている。これからシステムを改修していくなかで、そのような仕組みを組み込んでいくことも重要である。若者も本を読まないのではなく、興味のある面白い本があればやはり読む。

ところで、図書館にはLINEのアカウントはあるのか。

[事務局]

台東区立図書館はないが、台東区にはある。

[副委員長]

多くの若者はLINEをしているので、無料で使える図書館をアピールするために、例えばLINEを使ってみたらどうか。LINE福岡が、noteに図書館を使う利点を載せている。LINEも図書館を可能性のあるマーケットだと思っている。あくまでLINEは例だが、若者へのチャンネルを広げていくのは必要である。

また、災害が起こったり、感染症が拡大して休館になった場合に、非常時だからこそ必要な情報を図書館が届ける必要もある。例えば先ほど話があったような宅配サービスを全面的に実施するとか、予約しておいて窓口の本を取りに来るだけにする等、非常時における図書館サービスをシミュレーションしておくべき。そして、そのような対応策をシステムにあらかじめ組み込んでおいた方がいい。

なお、今話上がった取り組みをすべて行おうすると、お金も人手もたくさんかかる。普段図書館を利用する人にも、図書館を利用しない人にもアンケートを行い、優先順位を決めなければならない。アンケートに加え、団体関係者や先生方、親御さん、お子さん等さまざまな人に話を聞くなどして、なるべくお金をかけることなくニーズを拾い上げていくべきである。

[委員長]

台東区は日本の文化の中心で、江戸から繋がっているような文化や表現が残っており、ミニコミ雑誌等が出ている地域もある。また、古い家には、関東大震災や大戦の火から逃れた写真なども残っている。貴重なものなので、図書館でもデジタル化して残していった方が良い。今後図書館サービスをどう行っていくかの優先順位については、このような地域の実情も含めて考えていくべきだ。

[委員]

システムを改修する中で、使える予算が限られているので、まずパッケージを購入し、台東区としてこだわりたい部分に関して独自にプログラムを開発するなどお金をかけたらどうか。私もITコンサルタントを本業でしているが、そのようにメリハリをつけたプロジェクトの方が成功しやすい。

[委員長]

おっしゃる通りだ。読書通帳については、文部科学省の中学校での実証実験の委員長を務めたことがある。本を読んでも、友達との会話では本の話は漠然として弾まなくなりがちだが、読書通帳に記録することで、このタイトルの本が面白いと話し合うことができ、具体的なキーワードが皆の頭に残りやすい。皆で本を読む中で、読書通帳は非常に有効だと感じた。それは大人にも言えると思う。ただ、通帳を作るにはお金がかかる。地元の銀行や商店に出資を頼んで、企業名・店名入りのものを作るなど、資金面でも工夫して進めていってはどうか。町田市が有線の端末をスマホに切り替え、浮いたお金で人件費を賄ったという話もある。

また、都の図書館にいた際に、細かい手作業で入れるべきものも全部盛り込んで、多大なお金をかけてプログラムを開発したが、結局今は使っていない。そのあたりのメリハリを考えて、システムを作っていないほしい。他に意見がなければ、これで議事進行を終わりにしたい。

[事務局]

委員長ありがとうございました。次回の意見交換会の開催日は未定だが、年明けを予定している。時期が近づいてきたら、改めて連絡する。

6. 閉会

以上